

令和4年

壱岐市議会定例会12月会議

行政報告

壱岐市

目 次

1. はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・	1
(1) 長崎県への要望書の提出について	2
(2) ふるさと納税・企業版ふるさと納税について	3
2. 交流人口の拡大	
(1) 観光振興について	4
(2) 壱岐ウルトラマラソンについて	5
3. 産業の振興	
(1) 農業の振興について	6
(2) 水産業の振興について	8
(3) 芦辺港ターミナル周辺整備について	9
(4) 企業誘致について	9
4. 市民	
(1) へき地保育所のあり方について	10
(2) 新型コロナウイルス感染症について	11
5. 教育	
(1) 次代を担う壱岐っ子の県大会等での活躍について	12
6. 防災、消防・救急	
(1) 防災対策について	12
(2) 消防・救急について	13
7. 議案説明	
(1) 補正予算について	14
(2) その他の議案について	14
8. おわりに ・・・・・・・・・・・・・・・・	14

行政報告

令和4年壱岐市議会定例会12月会議

1. はじめに

本日ここに、令和4年壱岐市議会定例会12月会議にあたり、9月会議以降、本日までの市政の重要事項、及び今回補正予算に計上した主な内容等についてご報告申し上げ、議員皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

さて、令和3年度、本市の磯焼け対策事業に対し、多額の企業版ふるさと納税によるご寄附を賜りました株式会社ファウンテック様（代表取締役社長 ^{まんだに ただし} 万谷 正 様）が、この度、そのご功績に対し、紺綬褒章を受章されました。

また、令和4年度全国優良経営体表彰において、本市から経営改善部門で勝本町の ^{やまもと としお} 山本 利夫 様が経営局長賞を受賞され、令和4年度ながさき農林業大賞において、農産部門で石田町の 農事組合法人石田東 様が長崎県知事賞を、しまの農林業経営部門で石田町の ^{まつもと のりお} 松本 則雄 様、^{えいこ} 栄子 様が運営委員会会長賞を受賞されました。

さらに、公益財団法人 ソロプチミスト日本財団 が地域密着型の奉仕活動を継続的に取り組む団体等に贈る 社会ボランティア賞 において、12年続けてごみ抑制活動に取り組んでこられた 壱岐・島おこし応援隊 ^{さきもり} チーム防人 様が受賞されました。

また、令和4年県民表彰において、本市から、社会福祉功勞として保護司の ^{やまもと とみえ} 山本 富恵 様が、産業（農林）功勞として芦辺土地改良区理事長の ^{しらかわ ながとし} 白川 永利 様が、勤勞功勞として鍛冶職人の ^{やまがわ りょうすけ} 山川 良助 様

がそれぞれ受賞されました。

この度、叙勲、表彰の栄に浴された皆様に対し、今日まで築かれたご功績に、深甚なる敬意を表しますとともに、心からお慶び申し上げます。

(1) 長崎県への要望書の提出について

去る10月12日に、長崎県並びに長崎県議会へ、壱岐市・壱岐市議会連名の単独要望を行いました。大石知事をはじめ幹部職員、そして県議会では、^{なかしま ひろよし}中島 廣義 議長にご対応いただいたところであります。本市からは、 鶴瀬 和博 県議会議員にもご同席いただき、10項目の要望書を豊坂議長とともに提出いたしました。

本年度の要望のうち、今回は、重点要望項目として、「空港の整備等について」、「再生可能エネルギーの導入促進に向けた支援について」及び「磯焼け対策に関する支援の拡充について」の3項目についてご説明申し上げます。

また、昨年度要望の印通寺港施設整備について、本年度の新規事業として水深確保のための岸壁改良と泊地浚渫の事業採択をいただいたことに対し、お礼を申し上げたところであります。

大石知事からは、藻場の造成について、県としても積極的に推進しているところであり、壱岐市でのより効果的な造成の方法について、市を含め地元の意見を伺いつつ、適切な方法を積極的に検討していきたい旨のご回答をいただきました。

藻場は、海域において豊かな生態系を育む機能を有するほか、水産生物の生育にとって非常に重要な役割を有しているため、水産資源

の回復を図ることが、水産業を中心とした産業振興はもとより、観光・商工業の振興やブルーカーボンによる地球温暖化対策にも寄与することから、今後も積極的に取り組んでまいります。

(2) ふるさと納税・企業版ふるさと納税について

ふるさと納税については、毎年、壱岐市出身の皆様をはじめ本市を応援していただく全国の方々から寄附をいただいております。本年度の貴重な自主財源となっております。本年度は、目標額を5億円として取り組んでおりますが、10月末現在の実績は、6,550件、1億9,203万円であり、前年同期と比較し、9,807万円の増、率にして204%となっております。このことから、本年度末の決算額を、目標額を上回る7億円と見込んでおり、今回、歳入見込み額に合わせ、返礼品に要する経費等、所要の予算を計上しております。

寄附額増加の主な要因としては、昨年度から高い専門知識を持つ事業者へふるさと納税の業務を委託しており、新規事業者及び返礼品の数が大幅に増えていることに加え、壱岐市のふるさと納税サイトを全面的にブラッシュアップしたこと、さらには楽天ふるさと納税サイトの内容を充実させたこと等による成果と捉えております。

ふるさと納税は、例年、年間実績の6割以上が11月と12月に集中することから、これから年末にかけて一層の情報発信を図り、さらなる寄附者の獲得に繋げてまいります。

企業版ふるさと納税については、令和3年度に3件、1,530万円、本年度に1件、1,000万円の寄附をいただいております。本市

の貴重な財源となっております。

今後、年度をまたがる事業に対する企業版ふるさと納税の申し入れがあった際に受入れが可能となるよう、今回、壱岐市企業版ふるさと納税基金条例の制定について、議案を提出しております。

2. 交流人口の拡大

(1) 観光振興について

本市における観光客数を推計する上で参考となる九州郵船とオリエンタルエアブリッジの本年1月から10月末までの乗降客数累計は、399,569人、対前年比139.9パーセントでありましたが、コロナ禍前の令和元年と比較しますと、64.7パーセントに止まっております。

依然として厳しい状況にありますが、現在、本市独自の壱岐市プレミアム付き宿泊券発行事業等の観光需要喚起対策を実施中であり、11月末時点において、壱岐市プレミアム付き宿泊券発行事業では5,212枚を販売し、ツアー造成支援事業では7,464人泊の送客見込みであり、大きな効果を生み出していることに加え、10月11日から全国旅行支援が開始されたこと等により、徐々にではありますが本市への誘客も戻りつつあります。

また、県との連携による国境離島交付金を活用した誘客施策である「長崎しま旅滞在促進事業」において、これまで対象地域が九州圏内となっておりますが、対象地域が全国へ拡大されたことにより、幅広い活用ができるようになりました。この他、コロナ禍の影響に

より中止となっていた個人旅行者が購入できる「わくわく乗船券」の販売を再開したことに加え、10月29日から元寇にゆかりのある松浦市、対馬市との連携事業である「3市周遊元寇スタンプラリー」を実施するなど、本市への誘客促進に努めております。引き続き、感染状況を注視しながら、県及び関係機関と連携し、観光需要の早期回復を目指してまいります。

スポーツ合宿について、シドニー五輪女子マラソン金メダリストの^{たかはし なおこ}高橋 尚子 氏がアドバイザーを務めておられるスターツコーポレーション株式会社 女子陸上競技部が12月26日から1月10日までの16日間、本市で初めてとなる合宿を行っていただくことになっており、10名の選手及び関係者皆様が来島予定であります。

合宿期間中には、3年ぶりの開催となる「壱岐の島新春マラソン大会」に一部ご参加いただく予定であり、ゲストランナーとしてお越しいただく^{かわうち ゆうき}川内 優輝 氏とともに、島の子どもたちへ一流に学ぶ素晴らしい機会を提供いただけるものと考えております。本市への事前視察の折に監督及びスタッフの皆様から、合宿地として高い評価をいただいております。次年度以降も継続して本市を選定していただけるよう、引き続きスポーツ合宿誘致に努めてまいります。

（2）壱岐ウルトラマラソンについて

去る10月15日、3年ぶりに開催した「壱岐ウルトラマラソン2022」は、全国各地から598名のエントリーをいただき、絶好のマラソン日和のもと、100kmに319名、50kmに214名、総勢533名のランナーが出走され、事故もなく、391名のラン

ナーが完走されました。

3年ぶり、また新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じながらの開催で、選手皆様には、ご不便をおかけしたところもありますが、沿道のあたたかいご声援やスタッフ皆様のおもてなしの心に、ランナーの皆様からたくさんのありがたいお言葉をいただいております。また、本大会を献身的に支えていただいた消防団及び高校生をはじめとするボランティアの皆様、選手皆様へのご声援やコース周辺の交通規制等円滑な大会運営にご理解をいただいた市民皆様、協賛及び大会運営にご協力いただいた事業所並びに各種団体の皆様をはじめ、今大会を支えていただいた全ての皆様に心からお礼と感謝を申し上げます。

3. 産業の振興

(1) 農業の振興について

本年度の水稻の作柄は、7月中旬から8月中旬までの期間が平年と比べ日照不足で経過し、全もみ数が少なかったことから、長崎県全体では作況指数97、壱岐市においては94と平年を下回るとの発表がなされました。等級成績は、早期米については、「コシヒカリ」のほとんどが2等でありましたが、高温耐性のある「つや姫」は約8割が1等となっています。普通期米については、台風の影響や紋枯れ病が発生したため品質低下となり、等級悪化が懸念されております。

葉たばこについては、収穫期全体を通して天候に恵まれ、順調な成熟過程で推移し、平均収量は、10アール当たり293kgと昨年を大きく上回りました。10月31日から11月2日にかけて行わ

れた葉たばこ販売では、1kg当たりの代金は2,139円、10アール当たり代金62万6千円の好成績で、昨年と比較すると約9万円高となりました。

畜産については、第12回全国和牛能力共進会が10月6日から10日までの5日間、鹿児島県で開催されました。そのうち、種牛^{しゅぎゅう}の部で第3区（若雌の2）に長崎県代表牛として選考された田河地区の田中^{たなか みつはる}満治様の「かの号」が32席中8位に当たる優等賞8席という成績を収められました。肉牛の部においては、柳田地区の山本^{やまもと みつとし}満年様の牛が第6区（総合評価群）で15席中、総合4位に当たる優等賞4席を受賞され、その他、壱岐市農協肥育センター様の牛が第7区（脂肪の質評価群）で優等賞、柳田地区の山本^{やまもと みつとし}満年様の牛が出場した第8区（去勢肥育牛）で1等賞を受賞されております。

また、11月17日に佐世保食肉センターで開催された第1回長崎県産素牛3市場合同枝肉共励会、並びに11月21日に福岡食肉市場で開催された壱岐牛枝肉共励会において、いずれも山本^{やまもと みつとし}満年様がグランドチャンピオンを獲得されました。この共励会を通じて、肉用牛農家の生産意欲の高揚と経営安定が図られることを期待するものであります。

肉用牛について、JA壱岐市肥育牛の販売実績は、10月の枝肉単価が2,413円で前年同月比48円高の回復基調ではありますが、生産資材等の高騰を受け、厳しい経営状況になっております。

そのため、国・県の肥料価格高騰対策事業による肥料価格高騰分の一部支援に併せた壱岐市独自の物価高騰対策を進めております。

このような中、12月1日、2日に開催された子牛市では、平均価格が10月市と比較し、1頭当たり約8万2千円高の平均65万9千円で、価格の下げ止まりが期待されます。今後も、産地維持のため関係機関と連携を図り、肉用牛産地の基盤強化を図ってまいります。

農地・農業用施設等災害については、本年発生した農地・農業用施設災害の国庫補助金交付決定箇所80地区について、国の災害査定が終了し、今後早急に事務手続を進め、復旧に努めてまいります。

(2) 水産業の振興について

本年4月から10月までの本市の漁獲量及び漁獲高を昨年同期と比較しますと、漁獲量は1,348トンの2.5%減、漁獲高は15億7千2百万円の33.3%増と漁獲量は減少しておりますが、漁獲高は増加しております。春先から夏場にかけてケンサキイカ漁が好調であったことが増加の主な要因であります。他の魚種については、漁獲量も減少し、魚価についても新型コロナウイルス感染症の影響を受けて低迷が続いており、漁業者の経営は依然として厳しい状況にあります。このような状況を踏まえ、漁業用燃油対策事業を継続して実施し、漁業者の経営維持・存続を支援しております。

本年度の長崎県並びに長崎県議会への要望において、磯焼け対策を重点項目の1つとして、植食性動物の駆除等に関する支援の拡充及び県において核藻場となる大規模な仕切り網による藻場造成を要望し、クロマグロの漁獲制限についても沿岸漁業の漁獲枠の拡大、資源管理に伴う減収補填措置の充実、放流支援の充実等、国への働きかけを要望したところであります。

依然として、本市水産業は大変厳しい状況が続いておりますが、今後も引き続き漁業者の皆様そして各漁協をはじめ関係機関と連携を図り、水産振興に積極的に取り組んでまいります。

(3) 芦辺港ターミナル周辺整備について

去る11月9日、芦辺港ターミナル周辺整備検討委員会から「芦辺港ターミナル周辺整備に関する提言書」を提出いただきました。

本年6月以降、様々な課題解決と利用者の利便性向上等について検討を重ね、提言書を取り纏めていただいたことに感謝申し上げます。

今後は、提言書に盛り込まれた整備計画案の実現に向けて、長崎県をはじめ関係機関等と協議を進め、早期完成を目指してまいります。なお、県事業の浮棧橋等整備が令和5年度末に完成予定となっており、同時期にターミナル、駐車場等の再編整備を完了し、供用開始を図るため、ターミナルビル改修設計及びターミナル周辺整備測量設計に係る経費について、今回、所要の予算を計上しております。

(4) 企業誘致について

大手保険代理店であり、保険業務のコールセンターを業務として壱岐市への進出が決定した株式会社^{エヌエイチエス}NHS様と長崎県そして本市の間で、去る11月2日、長崎県庁において、立地協定調印式を執り行いました。

現在、株式会社NHSにおかれては、令和5年2月の開所に向けて準備が進められており、雇用の確保に向けた企業説明会も開催されています。オープニングスタッフとしては、定員間近になっている状況とお聞きしております。ご興味のある方は電話でのお問い合わせ等

にも対応されておりますのでお尋ねいただければと思います。

4. 市民

(1) へき地保育所のあり方について

9月27日の市議会9月会議の折にご報告申し上げておりました民間事業者による認定こども園施設整備事業の延期の申し出により、へき地保育所のあり方について、方針の見直しを行いました。

設置事業者である 社会福祉法人北串会^{きたぐしかい} による、認定こども園の開園を1年延期し、令和6年4月の開園とする決定を受けて、当初想定した保育の量の見込みと提供体制に変更が生じてまいりました。

これまで申し上げました説明の中では、三島保育所を除くへき地保育所5園を令和6年3月末で閉園することとしておりましたが、再度、壱岐市子ども・子育て会議へ意見を求め、その意見結果を尊重し、方針の見直しを行うことといたしました。

方針内容の見直しについては、平成26年の壱岐市子ども・子育て会議の答申を基本とし、令和5年度末(令和6年3月末)をもって、へき地保育所3園(渡良・沼津・初山)を閉園し、令和6年度末(令和7年3月末)で、三島保育所を除くへき地保育所2園(柳田・志原)の閉園を行うことといたしました。

へき地保育所のあり方の見直しに伴い、去る10月25日から11月2日にかけて保護者説明会を開催し、保護者の皆様へご説明申し上げ、ご理解をお願いしたところであります。

今後は、へき地保育所の閉園に向けた手続きを進めるとともに、保

護者の皆様並びに子育て世帯の皆様へ不安や混乱を招くことがないよう努めてまいります。

(2) 新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルス感染症については、9月9日以降、長崎県における「全数把握」が見直され、市町ごとの全感染者数の公表がなされておりましたが、11月17日から、市町ごとの発生状況を1週間分まとめて公表することとされました。これにより11月21日以降、本市における1週間分の感染者数を毎週木曜日に公共告知放送及び市ホームページ等でお知らせしております。

本市においては、引き続き、壱岐振興局及び壱岐保健所と連携を図り、感染動向の把握に努めておりますが、これから年末にかけて人の流れが活発になり、また、季節性のインフルエンザとの同時流行も懸念されています。新型コロナウイルスもインフルエンザも対策方法は共通しておりますので、市民皆様には、会話時のマスク着用、三密の回避、こまめな換気等、引き続き、基本的な感染防止対策の徹底をお願いいたします。

また、新規感染者が増え始めており、今冬にはインフルエンザとの同時流行が危惧されております。

このような中、国はオミクロン株対応2価ワクチンによる追加接種を、年内にも完了するよう自治体へ求めています。

本市においては、接種を希望される方のワクチンは、十分に確保できており、壱岐医師会のご協力により接種体制も整えているところであります。

市民皆様には、今冬の感染拡大に備え、自分自身だけでなく周囲の方々を守る意味でも、ぜひワクチン接種をご検討いただき、早めの接種をお願いいたします。

5. 教育

(1) 次代を担う壱岐っ子の県大会等での活躍について

去る10月22日、23日に佐世保市東部スポーツ広場で開催された長崎県中学校ソフトボール競技新人大会で、勝本中学校女子ソフトボール部が優勝を果たし、昨年に続き2連覇を達成しました。

また、去る11月2日に雲仙・小浜マラソンコースで開催された第74回長崎県高校駅伝大会女子の部で、壱岐高校が昨年の13位から大きく順位を上げ、見事6位入賞を果たしました。

なお、同大会において、諫早高校が4年連続28度目の優勝を飾り、同校の3区では、郷ノ浦中学校出身の2年、^{のむら なつき}野村 夏希 さんが区間賞を獲得、アンカーとなる第5区で、芦辺中学校出身の3年、^{たなか さくら}田中 咲蘭 さんが同じく区間賞の快走で、チームの連覇に大きく貢献しました。本市並びに本市出身の子どもたちである壱岐っ子の活躍を大変嬉しく思いますとともに、今後、さらなる飛躍を期待しております。

6. 防災、消防・救急

(1) 防災対策について

去る10月29日、長崎県と本市を含む県内3市、福岡県、佐賀県

の合同による原子力防災訓練が開催されました。本年度もコロナ禍により、島外への避難を想定した広域避難訓練は実施できませんでしたが、昨年引き続き、海上自衛隊艦船を利用し、福岡県への広域避難を想定した訓練を実施しました。

また、スクリーニング等の医療訓練に代わり、ホールボディカウンタ搭載車を利用した内部被ばくの測定訓練を実施し、初山地区においては、取り残された要支援者が避難を求めているとの想定で、「コミュニティバス オレンジ号」を活用して、勝本町のかざはやまで避難させるという訓練を実施いただいたところであります。

今後も実践的な訓練を一つひとつ積み重ねながら、成果と課題を十分に検証し、今後の防災対策に活かしてまいりますので、市民皆様におかれましては、地域での防災への取組など、自助、共助の強化を引き続きお願いいたします。

(2) 消防・救急について

長崎県営壱岐空港及びその周辺における消防救難活動については、長崎県と本市が業務委託契約に基づき、消防職員を配置しておりましたが、県と協議の結果、令和5年3月末をもって撤退することとなり、今後は、県営の職員による消防体制となります。このことから、今回、壱岐市消防本部等設置条例の一部改正について、議案を提出しております。

これから年末年始にかけ、火気を取り扱う機会が増え、空気が乾燥し、火災が発生しやすい時期となりますので、市民皆様には、火の取扱いに十分ご注意くださいようお願いいたします。

7. 議案説明

次に、議案関係についてご説明いたします。

(1) 補正予算について

本議会に提出した令和4年度補正予算の概要は、

一般会計補正額 4億7,000万円

各特別会計の補正総額 476万3千円

となり、本定例会に提出いたしました一般会計、各特別会計の補正額の合計は、

4億7,476万3千円

となります。なお、現計予算と合算した本年度の一般会計予算は、

246億5,598万2千円

で、特別会計については、

85億968万9千円

となっております。

(2) その他の議案について

本日提出いたしました案件の概要は、条例の制定・一部改正に係る案件7件、公の施設の指定管理者の指定に係る案件4件、その他の案件1件、予算案件6件であります。

何とぞ慎重にご審議をいただき、適正なるご決定を賜りますようお願い申し上げます。

8. おわりに

以上をもちまして、9月会議以降の市政の重要事項また政策等について申し述べましたが、様々な行政課題に対し、今後も誠心誠意、

全力で取り組んでまいり所存でありますので、議員各位並びに市民皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年12月8日

壱岐市長 白川博一